

支援サービス提供に繋がりにくい方への支援体制構築、事業者間の連携支援による支援チーム構築と地域での人材育成について

【取組み手法】

ケーススタディ大会

【開催日】

- ・ ケーススタディ 3月5日（水）13時30分から
- ・ 振り返り 3月13日（木）13時30分から

【ケーススタディ開催の趣意について】

和泉市では「和泉市障がい者地域自立支援協議会」という合議体を設置し、障がいがある本人だけではなく、それを支える家族や支援者（サービス事業者）、関係機関にとっても効果的かつ安心して暮らすことのできる環境整備のため、必要な取組みについての提案や協議を行い、和泉市障がい者基幹相談支援センターが事務局となってその実務についてマネジメントを行っています。

今回、当該自立支援協議会の委員の中から、次のような提案がありました。

様々な課題により支援やサービスに繋がりにくく行き詰っている障がい者の方へのサポートの方策を、さまざまな立場の垣根を超えた者同士で集い、考え、意見を交わし次への一手に繋げる活動を展開させることで、支援者の不安や負担の軽減や解消につなげるとともに、その検討にあたった担当者たちにも、知識や技術の向上といった研鑽により、人物としての成熟度の向上や、人的交流で得られる視野視座の拡大といった職員研修の要素、将来、このまま福祉分野でキャリアを継続させたいと思える、やりがいや意欲の創出による福祉人材の長期的確保に効果をもたせたいと考えています。

単に、困難事例を解決するための知恵を出し合うために無差別に人材を求めているものではなく、事例検討は、皆の視点を同じところに向けるために用いる一つのテーマです。自分が行き詰まりを感じた時に相談できる人や場所があり、またその逆の立場にもなれる、学び学ばされる場所をつくるといった取組みを行いたいというのが本当の狙いです。

また、実際に対応に苦慮するケースについて対応を行っている事業者については、きちんとその対応力や支援者の努力に対して評価を行い、それを周囲に可視化できる仕組みも作っていきたいと考えています。これにより、事業者としての信頼や信用度が上がり、新規ご利用者の獲得や、氷河期と言われる福祉分野の就職希望者の獲得において有利になる可能性も考えられます。

この提案に対し、当該自立支援協議会が賛同の決議を行ったことから、今回の「ケーススタディ大会」の開催に至りました。

自分だけでは判断や対応が難しいと感じているケース

(医療ケア、行動障がい、親亡き後の対応、転入後の調整、ひきこもり、虐待の疑いなど…)

家族、サービス事業者等支援者

相 談

計画相談支援等
(担当国会議、支援計画策定)

相談

報告

情報共有

課題の特定

受入調整

サービス事業者

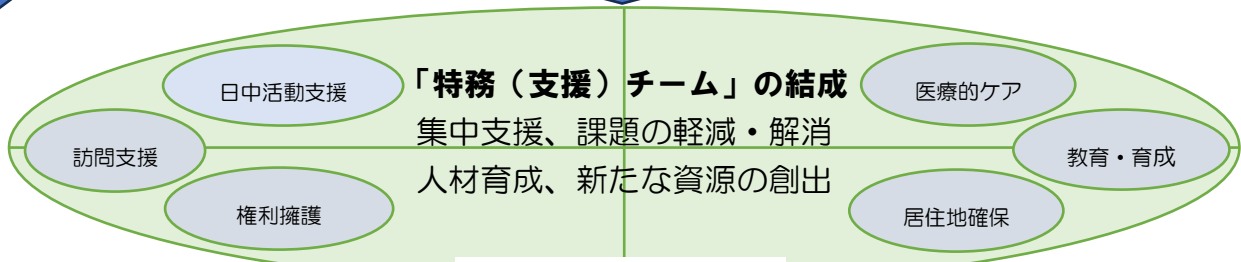
保健・福祉・就労
に関する公的機関等

自立支援協議会内
作業部会

従来まで…

助言・職員派遣

新たに創出したい仕組み



【支援体制の構築】

成功、苦難の共有

支援者の孤立防止

新規利用者の獲得

スタッフのスキルアップ

いち事業者への負担集中防止

困難ケース対応
事業者への表彰や公表

有事対応における
オールいずみ体制の構築

課題解決に向けた
共同体制の構築

有事対応時における
連携体制の円滑常態化

虐待等異変時の
早期発見、早期対応

★障がい福祉に携わる働き甲斐や喜び★

☞キャリアの継続や新規就職希望者の獲得への期待☞